

会議録

会議の名称	西東京市教育計画策定懇談会（第1回）
開催日時	平成29年7月12日(水) 午前9時30分から午前11時20分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎 502会議室
出席者	<p>【委員】遠藤委員、川村委員、三橋委員、田中委員、浅沼委員、水井田無小学校副校長（本名委員の代理）、大橋委員、渡邊委員、服部委員、石田委員、山村委員、伊藤委員、武藤委員</p> <p>【欠席委員】なし</p> <p>【事務局】木村教育長、渡部教育部長、南里教育部特命担当部長、早川教育企画課長、深谷学校運営課副主幹（等々力学校運営課長の代理）、内田教育指導課長、福田主幹（教育指導課）兼 統括指導主事、清水教育支援課長、岡本社会教育課長、大橋公民館長、中川図書館長、和田企画調整係長、齋藤企画調整係主事、利根川企画調整係主事</p> <p>【傍聴人】0人</p>
議 事	<p>(1) 座長及び副座長の選出</p> <p>(2) 会議の運営方法等について</p> <p>(3) 西東京市教育計画策定の趣旨等について</p> <p>(4) 西東京市教育計画策定のスケジュール</p> <p>(5) 教育行政に関する国及び東京都の動向</p> <p>(6) 教育行政に関する西東京市の動向</p> <p>(7) その他</p>
会議資料	<p>資料1 西東京市教育計画策定懇談会委員名簿</p> <p>資料2 西東京市教育計画策定懇談会設置要綱</p> <p>資料3 西東京市教育計画策定懇談会傍聴要領</p> <p>資料4 教育計画策定の趣旨等について</p> <p>資料5 西東京市教育計画スケジュール</p> <p>資料6 教育行政に関する国、東京都、西東京市の動向</p> <p>資料7 平成29年度西東京市教育委員会の主要施策</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(1) 座長及び副座長の選出</p> <p>座長には遠藤委員、副座長には服部委員が選出された。</p> <p>(2) 会議の運営方法等について</p> <p>次の2点について、事務局案が承認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 傍聴要領（原則公開、傍聴人の定員5人など） ・ 会議録は発言者ごとの要点記録とする。 <p>(3) 西東京市教育計画策定の趣旨等について</p> <p>資料4を用いて事務局が説明した。</p>	

(4) 西東京市教育計画策定のスケジュール

資料5を用いて事務局が説明した。

(5) 国及び東京都における教育行政に関する動き

資料6を用いて事務局（委託業者）が説明した。

(6) 西東京市における教育行政に関する経過

資料6を用いて事務局が説明した。

D委員

「ICTの利活用」でICTとはどのような意味か。

遠藤座長

学校では教室でパソコンが入っていて、スクリーンでインターネットや子どもたちのノートが映し出されている教育が行われている。今後も活発化していくと思われる。

C委員

国や都の動向と西東京市とどう結びついていくのか。

事務局

国の大きな方針の中で、西東京市の地域特性を踏まえ、細分化しながら計画策定をしていく。

E委員

西東京市の計画の基本方針4「社会全体での教育力の向上に向けて」と基本方針5「いつでも・どこでも・だれでも学べる社会の実現に向けて」の違いは何か。

事務局

基本方針4については特に青少年教育や学校教育と関連をもって進めていくものであり、基本方針5については社会教育や成人の教育という視点となっている。

E委員

年代的に考えて良いか。

遠藤座長

基本方針4は学校だけでなく、家庭など社会教育などを含めた方向性が示されていて、基本方針5については環境の整備ということまで掲げられている。

G委員

これまでの西東京市の計画で力のいれてきたものはあるのか。

事務局

現在の計画で強く押しだしたのが基本方針3「一人ひとりを大切にする教育の推進に向けて」。

事務局

特別支援や校内での支援体制の充実、特別支援学級の充実などを図ってきた。

B委員

国や都の計画の動向の話があったが、これから西東京市の現状がどうかということを考えようとしているのか。

事務局

平成 29 年度の主要施策について本日資料 7 で準備をしている。

木村教育長

西東京市としてこういうことをしてほしいということをそれぞれの立場から発言してほしい。あまり、国や都の動向にしばられないでほしい。

遠藤座長

西東京市の計画に盛り込んでほしいことについて各委員のご意見をうかがいたい。

B委員

西東京市の子どもたちが自分に自信をもって他者を認める子どもとして育っていけるような教育となるようにしていきたい。

D委員

子どもの自己肯定感を高めるためにはお母さんの自己肯定感を高めていくことが必要。また、地域の人とのつながりづくりができると、地域の人から子どもの様子を聞くことができ、保護者の安心感にもつながる。

F委員

P T A を経験して、学校の教育スローガンを掲げているものが先生によって違いがあることを感じる。子どもの自己肯定感をつぶしてしまう先生もいるので、若手の先生を管理職の方がフォローできる体制づくりができるといい。

H委員

生徒が快適に暮らせることが重要ではあるが、快適さの中に負担も必要だと思う。先生による教育の違いは、経験年数だけでなくすべての先生の環境づくりとして検討していかないといけない。

J委員

保護者との信頼関係をつくっていくことが一番重要。保護者の思いがある中で、学校がこんな意図で教育を進めているということについて共通理解をしていく活動を進めないといけない。

K委員

地域や保護者から信頼される学校であることが必要。一人ひとりを大切にし、みんなが快適な学校にしないとけない。一人ひとりをケアしていくためにも、カウンセリング体制が重要である。

遠藤座長

カウンセリング体制についてはどのような状況か。

事務局

都から派遣されているカウンセラーは日数が決まっている。スクールソーシャルワーカーは4名全員を心理職であてている。スクールカウンセラーと連携を取りながら特別支援だけでなく、一人ひとりの気づきを大切にして支援している。

L委員

特別支援教育という言葉が使われ始め、障害をどう捉えるかという大きな動きがあるが、未だに特別視的などころは否めない。教育の中で障害という概念をしっかりとらえていかないといけない。また、10年後の学校が描けない中で、どう見通すかが難しいが、夢を語っていいといふ。

I委員

同じ地域に住んでいる経験から、先生も子どもたちと一緒に育てていくものだと思う。そのためには賢く連携していくことが必要。常に子どもにとってより良い環境づくりを念頭に検討していくことが大切。

G委員

公民館の連続講座や子ども食堂を実施している。PTAの立場として、学校と保護者と地域の連携が重要だと感じてきた。今の親は知らないことも多い中、学校では子どもの教育を進めつつも、家庭への教育支援ができるといい。保護者が先生方と関われることで、いろいろなことが変わってくると思う。また、現場の先生にアンケートを実施することも計画に反映できるのではないか。

C委員

学習指導要領の改訂に伴い乳児に対する教育が認知された。家庭教育だけでなく、乳幼児にどのように支援するか明確にできるといい。待機児童だけでなく、子育てが楽しく感じられるようにしていくことが大事であり、それが小学校に上ってからの現場の先生の支援にもつながるのではないか。

A委員

「生きる力」はイコール「選ぶ力」だと思う。自分にとって必要なものを「選ぶ力」をつけるための情報が必要だと思う。

遠藤座長

様々な立場からの意見で改めて学校と地域と家庭の連携が必要と感じた。

(7) その他

次回の日程は8月23日、24日、次次回は11月で調整中

以上